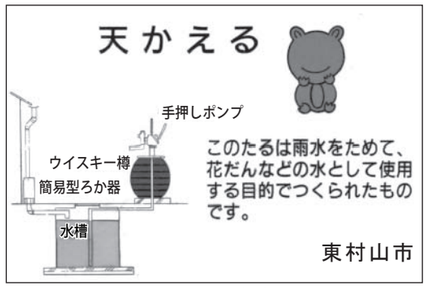
気になる水循環(1)

～東村山市「天(あま)かえる」の取り組み～

今号より「気になる水循環」と題して、家庭や地域において水循環に関してできることは何か？　実際の取り組みをヒントにして一緒に考えていきたいと思います。

第1回の今回は、東村山市が行う「天かえる」事業を紹介します。ユニークなネーミングには、雨水を利用することで再び水が「天に還る」という意味が込められています。この事業では、市内の小学校、市民農園など約20ヵ所に右の写真に示した装置を設置しています。この装置で雨水をいったん貯めれば(雨水貯留(うすいちょりゅう))、下水路や川へ雨水が一気に流れ込むことを避けることができます。そして、晴れた日に貯めた水を植木の水やり、校庭への散水、農機具の洗浄などに利用することで、貴重な水を無駄なく使えます。

市下水道課の服部さんによれば、「東村山市汚水事業完成を記念して始めた事業であり、十年程前から行っている」とのこと。特に小学校では、子どもたちが水資源の大切さを知ることができる施設として位置づけられています。雨水を貯めて使う知恵、皆さんも取り入れてみませんか。



天かえるの仕組み

「秋津ちろりん村」に設置されている天かえる

事務局だより

去る4月8日に第1回、5月20日に第2回の新河岸川流域川づくり連絡会が開催されました。

第1回新河岸川流域川づくり連絡会

これまでの活動から抽出された課題を基に、今年度の活動方針について意見交換を行いました。連絡会に関する課題としては、活動(フォーラム・見学会)の検討に多くの時間を占めていることが挙げられました。そのため、今年度は連絡会の時間を使い、川づくりや総合治水対策に関する勉強会・意見交換会を中心に行う方針となりました。

第2回新河岸川流域川づくり連絡会

前回の連絡会で決定した方針を受け、「魚道」をテーマとした意見交換会を行いました。この日いただいた意見を基に、6月28日には魚道の見学会を行います。

第2回川づくり連絡会の様子

この他に、どうしたら多くの方に新河岸川流域しんぶん「里川」等の内容を伝えることができるかについて議論しました。第3回連絡会でもこの内容について引き続き検討を進めていきます。

川づくり連絡会に参加してみませんか？

原則第2火曜日に新河岸川流域川づくり連絡会を開催しています。参加希望の方は、下記事務所までお問い合わせください。(開催場所はお問い合わせ時にお知らせします。)

しんぶん「里川」掲載情報を大募集します！

各流域や地域での活動報告やイベント情報を募集しています。身近な情報などをお手紙またはFAX・メールにて事務局までお寄せ下さい。

■連絡先
新河岸川流域川づくり連絡会　事務局
(国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所 調査課内)
〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1
TEL 03-3902-3220　FAX 03-3902-2346
URL http://www.ara.go.jp/arage/shingashi/
E-mail shingashi@ara.go.jp

THE SHINGASHI BASIN NEWS
新河岸川流域しんぶん 里川
SATO GAWA
VOL. 52
発　行●新河岸川流域川づくり連絡会（荒川下流河川事務所　調査課内）
住　所●東京都北区志茂5-41-1 TEL03-3902-3220　FAX03-3902-2346
発行日●平成20年（2008）6月20日

切り絵　毛利将範

川沿いの桜並木がすっかり濃い緑に覆われました。先日、通勤途中に見かけたアジサイがとてもきれいで、思わず写真を撮りました。梅雨のこの季節、雨音に耳を傾けながら、雨水の行く末を考えてみるのもいいかもしれません。

今後の新河岸川流域しんぶん「里川」では、私たちの暮らしと川との関わりについて、これまで以上にわかりやすく皆様へお伝えします。紙面に関するご意見・ご感想、取り上げてほしい情報など、ぜひ事務局までお寄せください。

目次

P2　特集：緑を守って湧水保全！
P3　レポート：黒目川川まつり春 2008
P4　新河岸川流域で知ろう・学ぼう
P5　平成 20 年度 新河岸川流域川づくり連絡会年間活動予定
P6　新河岸川流域川まつりリレーフェスティバル開催予定
P7　イベント・お知らせ
P8　連載：気になる水循環(1)・事務局便り

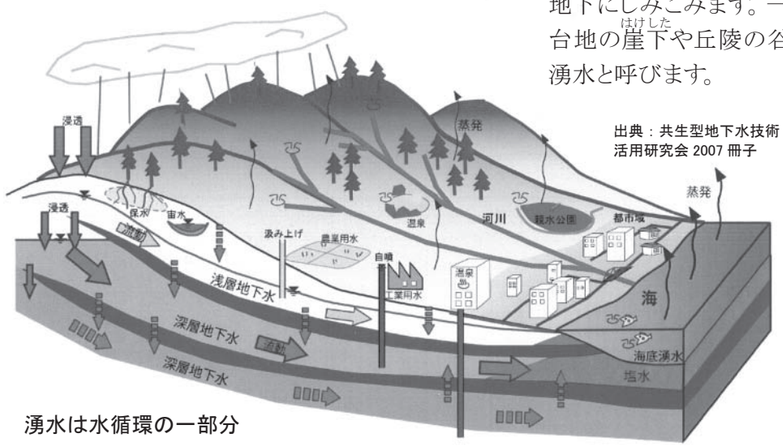
緑を守って湧水保全！
～流域の自然環境が生んだ貴重な財産～

全国では 12,820 件の湧水が把握されています（出典：環境省湧水保全ポータルサイト）。新河岸川流域に湧水が 200 件以上把握されていること、皆さんは知っていましたか？　現在、流域の各所では湧水に関する様々な取り組みがなされています。今号では、3月に開催された「茶の都(くに)いるま　湧き水シンポジウム」での発表内容から、湧水の基礎知識を抜粋してお伝えします。さらに、白子川での湧水保全活動の事例を紹介します。

湧水は地下水の「のぞき窓」！

雨が降ると水は主に川となって低い方へ流れていくほか、地下にしみこみます。一旦地下にしみこんだ水（地下水）が台地の崖下(がけした)や丘陵の谷間から自然にわき出ているものを湧水と呼びます。

近年、少雨傾向や急激な都市化などにより、地下に貯えられる水の量が減っています。また、有害物質により地下水が汚染されてしまう場合もあります。このことは、湧水の水量や水質を測定するとわかります。つまり、湧水の水量や水質の状態から、地下水の状態について知ることができるといえます。



出典：共生型地下水技術活用研究会 2007 冊子

湧水は水循環の一部分

茶の都(くに)いるま　湧き水シンポジウム
－ 里山が育むホタルと湧水の保全・復活 －

と き：平成 20 年 3 月 23 日（日）
ところ：入間市藤沢公民館

□基調講演
里山と湧き水のつながり（講演：恩田裕一先生）

□報告
環境省の湧水保全の取り組み
入間市の湧水調査の結果概要

□パネルディスカッション
狭山丘陵の湧水保全に向けて

パネルディスカッションでは活発な議論が行われました

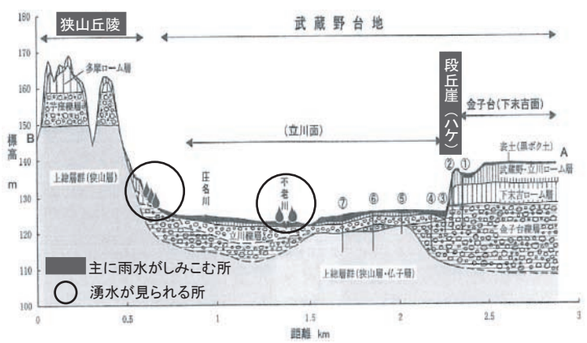
● 主催者に聞く！ ●
入間市でシンポジウムを開催したのはなぜ？

昨年、環境省が募集した「湧水の保全・復活のモデル地区」に応募したところ、入間市が選ばれました。今回、環境省の調査結果がまとまったのでシンポジウムを開催しました。これを機に、里山や湧水の存在と魅力を市民の皆さんに知ってもらえればと思います。

（入間市環境経済部環境課の清水さん談）

（なぜ茶の都(くに)？）…入間市は県下一の生産量を誇る茶どころだからです。

湧水はどこにある？



出典：入間市博物館古地図シリーズ6宮寺・二本木村絵図解説に一部加筆

狭山丘陵や段丘崖（ハケ）に残る緑地では、雨水が地下へしみこみます。都市化が進む台地上でも、雨水浸透マスによって、雨水をしみこませることができます。

では、湧水はどこに現れるのでしょうか。入間市（不老川流域内）の場合、①狭山丘陵の北麓(ほくろく)、②谷部を流れる川沿いで湧水を見ることができます。

ちなみに、8月開催の「大森の池まつり」の会場（大森調節池）で見られる水の出どころは湧水です。このおまつりでは、カヌー体験や魚とりを通じて湧水の恵みを感じることができます。

湧水保全には適切な里山管理が重要

基調講演における恩田先生のお話によれば、「降雨時、林床に草が生えていないヒノキ林では地表面を流れ下る水の割合が大きく、思い切った間伐を行い林床を明るくすることが重要」とのこと。すると地表には草が生え、雨水がよくしみこむようになるそうです。

また、狭山丘陵の早稲田大学 B 地区湿地で研究を行う大堀先生からは「林は緑のダム」というお話がありました。湿地において一年間、雨が降るたびに降水量と流出量を調べた結果によれば、「降った雨の89%がいったん地下水として蓄えられる」とのことでした。

湧水周辺の生態系を知り、守る

和光市内を流れる白子川は、武蔵野台地の末端部を流れています。ここでは、崖沿いのあちこちで湧水を見ることができます。豊富な湧水に恵まれた白子は、かつて川越街道の白子宿として栄えていました。

この地で活動する、NPO 法人和光・緑と湧き水の会は、緑地保全、希少種の保護、観察会などを行っています。代表の高橋さんからは、「この活動を通じて、今後も湧水が育む豊かな自然と歴史文化を伝えていきたい」というお話を聞くことができました。

かっぱクイズ　本文にヒントがありますよ！

知ってる？　湧水はてな

●Q1. 全国の湧水把握件数は何件？
①100 件　②6,410 件　③12,820 件

●Q2. 湧水をより守る方法はどれ？
①手入れをしながら緑地を残す
②雨水浸透マスを設置する
③畑に大量の肥料をまく

答えは4ページの下にあります。

崖ぞいの湧水と水路

湧き水利用の聞き取り

（写真提供：NPO 法人　和光・緑と湧き水の会）

REPORT　黒目川川まつり春 2008

日時：平成 20 年 4 月 20 日（日）10：00 ～ 14：00
場所：埼玉県朝霞県土整備事務所　駐車場，黒目川沿い
主催：新河岸川水系水環境連絡会

黒目川の春を楽しむ ＆桜並木の手入れ作業

朝霞市の黒目川沿いで、24年前に始まった桜の植樹。今では立派な桜並木となり、訪れる人々の心を癒しています。この桜並木を守るため、有志からなる「黒目川の景観を考える会」の皆さんによって手入れ作業が行われています。この日はおよそ30人が集まって作業を行いました。同会員の指導の元、参加者は桜の下枝（ひこばえ）を剪定(せんてい)し、枯れ枝・折れ枝を集めながら川沿いを歩きました。

紙皿で工作したお魚の釣り堀です

川づくり連絡会による総合治水対策パネルもありました

川まつり会場では、手作りの黒目川水族館、模擬店、子ども工作コーナーなどの催しがありました。関係団体パネルコーナーでは、川づくり連絡会の総合治水対策パネルも展示されていました。埼玉県立いずみ高等学校釣り愛好会 OB の木村直樹さんは、大都市近郊の川でありながら、たくさんの魚が生息する黒目川に魅せられた一人。高校1年生の頃より地元黒目川での活動に参加し、卒業後もイベントに合わせて愛好会の仲間たちと集まるそうです。川でつながる仲間の輪、どんどん広がるといいですね。

新河岸川流域で知ろう・学ぼう！

～魚がのぼりやすい川づくり～

今号より「魚がのぼりやすい川づくり」について少しずつ紹介します。ぜひ一緒に考えていきませんか。

なんの写真かわかりますか？

右に挙げた4つの写真はいずれも同じ目的で作られた物です。わかりますか?

答えは「魚道（ぎょどう）」です。魚道とは、**魚が移動する際の障害を取り除き、少しでも移動しやすいように設置された水路（装置）**のことです。

平成9年（1997）に河川法が改正され、従来からの「治水」と「利水」に加え、「河川環境の整備と保全」が法の目的に追加されました。それまでも魚道の整備は進められてきましたが、この法改正により全国各地での魚道の整備が促進されました。

黒目川（埼玉県朝霞市）

新河岸川・砂川堀合流地点（埼玉県富士見市）

多摩川（東京都稲城市）

北川（東京都東村山市）

もっと知りたい！ マニアックQ

Q1 魚が移動する際の障害とは具体的には何でしょうか?

A1

河川横断施設（ダム、取水堰、床止め等）

施設によって生じた「落差」が魚の移動をはばむことがあります。

・利水施設
　川の流れをせき止める「ダム」や「取水堰」
・治水施設
　流水による河床の洗掘を防ぎ、河床勾配を安定させるために設けられる「床止（とこど）め」等

Q2 魚道を設置するときに知っておくべきこととは?

A2

① 川のことを知る

・川の特性や環境
　（河川の形状、河床材の状況、水温・水質および流況等）
・魚の生活に支障が出る要因となる河川横断施設等

② 魚のことを知る

・魚の生活史、分布・遡上範囲等

Q3 魚道が作られたのはいつ頃からでしょうか?

A3

最初は明治3年（1870）頃

この頃、十和田湖へ魚を遡上させようとして自然の滝に作られたものが最初とされます。

その後、大正元年（1912）に瀬田川（滋賀県）の旧南郷洗堰（なんごうあらいぜき）において本格的な魚道としてウナギ専用の魚道が作られました。ちなみに、魚道の始まりは17世紀初頭のフランスに遡（さかのぼ）ります。

（参考文献：「魚道の設計」（廣瀬利雄・中村中六編著）、「魚がのぼりやすい川づくりの手引き」（国土交通省河川局））

6月28日（土）に魚道の見学会を開催します　次号に開催報告を掲載します

参加をご希望の方は6月26日（木）までに下記へご連絡ください。
事務局　TEL 03-3238-8257　日本工営株式会社 防災マネジメント室　担当：菱田（ひしだ）・鎌田（かまだ）

3ページのかっぱクイズの正解　Q1：③　Q2：①と②（参考：③の肥料のやりすぎは地下水汚染の原因になります。）

新河岸川流域川づくり連絡会 平成20年度 年間活動予定

平成20年6月～平成21年3月

昨年度、新河岸川流域川づくり連絡会（以降、連絡会と称します）は、発足より10年を迎えました。そして「新河岸川流域フォーラム」や「川でつながる発表会」を通じて、川づくりを考える市民の輪は年々広がっています。

今年度の連絡会では、「**市民で広げる川づくり**」をテーマに年間の活動を計画しています。

活動を通じてより多くの人が川づくりに興味を持ち理解を深めることで、川づくりを考える市民の輪をもっと広げていきたいと連絡会では考えています。

平成20年

6月
- 第3回新河岸川流域川づくり連絡会（6月16日）
- 「里川」52号発行（6月20日）
- 第15回 川づくり見学会・交流会（6月28日）

7月

8月
- 第4回新河岸川流域川づくり連絡会（8月12日）
- 「里川」53号発行（8月22日）

9月
- 第5回新河岸川流域川づくり連絡会（9月9日）
- パネル展開催（9月下旬～10月上旬）
- 「里川」54号発行（9月26日）

新河岸川流域川まつりリレーフェスティバル（7月上旬～10月下旬）

10月
- 第6回新河岸川流域川づくり連絡会（10月7日）
- 平成20年度 新河岸川流域フォーラム（10月開催予定）

第13回川づくり見学会・交流会の様子（旧芝川にて、水質浄化の取り組みなどを見学）

11月
- 第7回新河岸川流域川づくり連絡会（11月11日）
- 「里川」55号発行（11月28日）
- パネル展開催（12月上旬）
- 第16回 川づくり見学会・交流会（12月中旬）

12月
- 第8回新河岸川流域川づくり連絡会（12月9日）
- 「里川」56号発行（1月23日）
- パネル展開催（1月下旬～2月上旬）

平成19年度新河岸川流域フォーラムの様子（志木市市民総合センターにて　テーマ：みんなの流域、みんなで治水！）

平成21年

1月
- 第5回川でつながる発表会（2月中旬）
- 第9回新河岸川流域川づくり連絡会（1月27日）

第4回川でつながる発表会の様子（朝霞市中央公民館・コミュニティセンターにて）

2月

3月
- 第10回新河岸川流域川づくり連絡会（3月10日）
- 「里川」57号発行（3月17日）

活動には、川づくりに関する勉強や現地見学の機会があります。まちづくりの一部として川づくりに興味のある方、地域での活動が全く初めての方、どなたでも連絡会に参加できます。参加をご希望の方は、事務局までご連絡ください。

※上記の日程は都合により変更されることがあります。

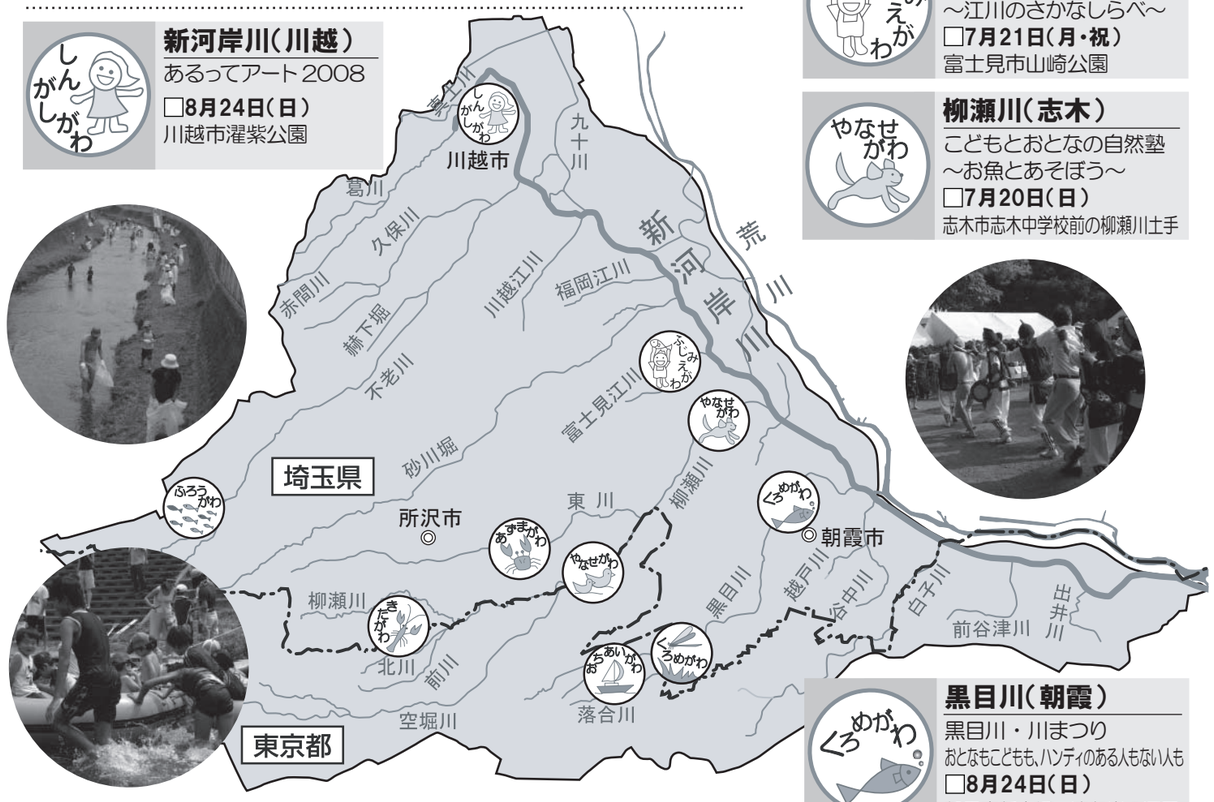
新河岸川流域川まつり リレーフェスティバル

平成20年度開催予定

※開催場所、時間、イベント内容などの詳細は、リレーフェスティバルチラシをご覧ください。

今年の夏も、新河岸川の各支川で恒例の川まつりが予定されています。7月から8月にかけて流域内の各地では、川の清掃や魚とり、カヌー遊びなどのイベントが開催されます。2ヵ所以上の川まつりに参加してスタンプを集めて応募すると、抽選で記念品がもらえるスタンプラリーを行います。これを機に川を通じていろいろな人たちと交流し、地域と川への理解を深めてみてはいかがでしょうか。

新河岸川（川越）
あるってアート2008
□8月24日（日）
川越市濯紫公園



東川
東川・川まつり
～身近な川しらべ～
□7月21日（月・祝）
所沢市立東中学校前川端橋

富士見江川
富士見江川・川まつり
～江川のさかなしらべ～
□7月21日（月・祝）
富士見市山崎公園

柳瀬川（志木）
こどもとおとなの自然塾
～お魚とあそぼう～
□7月20日（日）
志木市志木中学校前の柳瀬川土手

黒目川（朝霞）
黒目川・川まつり
おとなもこどもも、ハンディのある人もない人も
□8月24日（日）
朝霞市新高橋下流左岸の河原

不老川
第9回鳥になろう魚になろう「大森の池まつり」
□8月17日（日）
入間市大森調節池

柳瀬川（清瀬）
清瀬川まつり2008
□8月2日（土）
清瀬市台田団地桜並木の下

黒目川（新座）
第10回わいわい川あそび
～アユの棲む黒目川をきれいにして川で遊ぼう～
□8月3日（日）
新座市栗原1丁目前公園

北川
第13回
北山わんぱく夏まつり
□8月3日（日）
東村山市北山公園

落合川
第15回わくわく川清掃&川あそび
～川をきれいして川で学び遊ぼう～
□7月19日（土）・7月20日（日）
東久留米市落合川沿い不動橋広場

新河岸川流域フォーラム
□10月開催予定

イベントカレンダー

柳瀬川・オオブタクサ抜き取り作戦

と　き　7月15日（火）　14:30 ～ 16:00
ところ　志木中学校前の柳瀬川・河川敷
内　容　志木中学校生徒（去年は130人程）を中心として、柳瀬川鉄橋と富士見橋の間を中心に、柳瀬川の河川敷きでオオブタクサ等の抜き取りをします。
持ち物　軍手、長袖・長ズボン、帽子、水筒、虫除けスプレー　等
主　催　NPO法人エコシティ志木
（財）埼玉県生態系保護協会志木支部
協　力　志木市立志木中学校
問合せ　048-473-4909（山崎）

やなせ川いかだラリー　出艇募集

と　き　7月21日（月・祝）※雨天時は27日に延期
ところ　志木大橋～富士見橋
内　容　今年で16回目を迎え、水谷東地域の夏の風物詩となっているイベントです。
手作りいかだで柳瀬川くだりに挑戦！
いかだの作り方も教えます。
市内外からの参加をお待ちしています。
参加費　1人500円（昼食代など）
主　催　やなせ川いかだラリー実行委員会
・水谷東公民館
問合せ　048-473-8717（水谷東公民館）

埼玉県からのお知らせ

◆平成20年度　第6回　新河岸川流域川づくり懇談会「市民と行政の合意形成に向けたルール作り」開催

と　き　7月13日（日）13:30 ～ 16:00
ところ　朝霞市リサイクルプラザ（朝霞市浜崎664-2）
内　容　事業概要説明・意見交換　等
基調講演　NPO法人全国水環境交流会
代表理事　山道省三氏
申　込　6月30日（月）までに右記問合せ先までお願い致します。

●問合せ先●
埼玉県総合治水事務所
荒川水系担当　吉澤、大竹
TEL：048-737-2001
FAX：048-737-2193
メール：a1065287@pref.saitama.lg.jp

国土交通省からのお知らせ

荒川知水資料館（amoa）ワークショップ

荒川知水資料館（amoa）では荒川に触れることができる機会として年間を通じて様々なワークショップを開催しています。

◆「荒川水難救急講座　知っておこう水辺のファーストエイド
～安全に水辺で遊ぶ為に～」

と　き　7月26日（土）10:00 ～ 15:30
（荒川知水資料館で9:30から受付開始）
ところ　荒川知水資料館（amoa）　北区・子どもの水辺
講　師　日本ファーストエイドソサエティ
対　象　中学生以上・大人を対象
内　容　安全に水辺で遊ぶ為に水の事故の実態・現象を学びながら、水辺での事故の予防方法を学びます。
（午前：室内講座、午後：野外講座）
募集人数　30名（定員に達し次第締め切ります。）
持ち物　筆記用具、動きやすい服装（サンダル、長靴は不可）、帽子、昼食、飲料水
費　用　50円（保険代）
申　込　はがき・電話・メール・直接資料館受付のいずれかで、参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号をご連絡ください。

屋外でのスローロープを使った救助方法の実習

●問合せ先●
〒115-0042
東京都北区志茂5-41-1
荒川知水資料館　ワークショップ事務局
TEL：03-3598-2134
メール：amoa-ws@ara.go.jp
HP：http://www.ara.go.jp/amoa/
受付時間：10:00 ～ 16:00・月曜休館
（月曜が祝日の場合は火曜休館）

【受付開始】7月5日（土）

※個人情報の取り扱いについては、個人情報保護法に基づき適正に取り扱います。